

〔莫傳抄〕十二月異名 雪待月 神歸月十一月

〔藏玉和詩集〕十二月異名略 十一千鳥 霜降月 神無月 霜見月

〔伊呂波字類抄天象〕十二月師馳律中大呂 臈月同 十二月

〔八雲御抄三上〕十二月 玄はす

〔下學集上〕大呂十二月 臘月支那十二月之祭名臘也故師趨居家雖師匠亦趨走故云師趨也

〔書言字考節用集二〕師趨家雖師匠亦趨走故云爾 臘月季冬日本

〔二中歷五〕月倭名 十二月俗說云十二月俗競迎法師或禮佛名經或令讀誦諸經東西馳

〔輿義抄上〕異名十二月 僧をむかへて佛名をおこなひあるひは經をよませ東西にはせはしる

ゆゑに師はせ月といふをあやまれり

〔東雅一〕天交〕シハスとはこれも漢に十二月を歲終と云しごとく歲の終を云也古語に年をトシと

もいひトセともいひまたチともいひし事前に注せし事のごとくそのチといひしはトシとい

ふことば一たび轉じてシとなりシといふことばふたたび轉じてチとなりし也シハスといふ

がごときシとはトシといふことばのひとたび轉せし所也ハスといふはハツ也スといひツと

いふも其語轉せし也我國の語に凡事の終りをハツといふもその語の轉せし也凡事の終をば

ハツとしハテと言也されば萬葉集に極の字讀てハツともいへば俗に極月の字を用ひてシハ

スともいふなるべし

〔語意考〕十二月を志波須シハスといふは登志波都留月トシハツルの上下を略き波は本の如し都と須スを通はしい

へり

〔秋苑目〕涉七〕民間歲節下

十二月謂之四極又曰極月 貝原損軒曰是月也四時極盡故曰四極此讀云四波須 俗名極月亦此意豐後